

# 令和3年度 学校評価(自己評価)

令和4年5月

学校法人 本郷学園 もみじ幼稚園

## 1. 教育方針

「幼児教育こそが大樹に育つための“根の教育”であり、自ら伸びようとしているその力を、いつくしみ育てることが幼稚園の役目である」(初代徳川宗敬園長の基本方針)

## 2. 教育目標

- 1 心身共に健康で、幼稚園生活を楽しむ
- 2 友達と仲良く遊ぶ
- 3 自分で考えて行動する
- 4 いろいろなことに興味を持つ
- 5 思ったことや考えたことなどを表現する

## 3. 具体的な目標(こどもの姿・保育者の指導内容)

- 1 先生が大好きになる 幼稚園が大好きになる

幼児期のこどもにとっては健康な心と体の育成は大前提である。幼稚園はこどもたちにとって家庭を離れた初めての集団であることをふまえ、まずは担任の先生に親しみを感じられるよう丁寧な対応をしていく。入園当初は保護者から離れられずともそれは自然な姿として温かく受け入れる。

幼稚園には地域の子育ての基地、という役目もある。子育ての専門家としての知識と経験を活かし、保護者に対しても大切なお子さんをお預かりしているという思いを忘れず相談には誠意をもって応じる。

- 2 好きな遊びを見つけて遊ぶ

もみじ幼稚園ではまずはこどもが夢中になって遊べることを目指す。

夢中になれる遊びを見つけられると、こどもたちは幼稚園でも安定し、徐々に周りへの関心を広げていく。自分に自信が持て友達と関わってみようとするようになる。

こども同士のやり取りの中では、思いの違いからトラブルになることも多いが、保育者はこういったことを、こども同士が他の存在を知り、相手にも自分と同じような思いがあることを知るきっかけととらえる。それぞれの思いに寄り添い、自分の思っていることを言葉で伝えあえるよう援助していく。

### 3 主体的な取り組みをする

主体性を大切にす。好きな遊びだけでなく、指導計画に基づいた課題としての遊びにおいても、こどもたちが、（おもしろそうだな、やってみよう！）と思えるよう教材や課題、指導方法を工夫する。

年長組になると、運動会、こども会（劇の発表）といった大きな行事もあるが、保育者はこどもたちが（やらされている）と感じるのではなく（やってみたい！）と積極的に取り組めるよう活動の精選や指導を工夫する。

### 4 自然の中でいろいろなこと興味をもつ

地域でも群を抜く大きな木に囲まれた豊かな自然を生かし、こどもたちがいろいろなことに興味を持てるよう

保育者も一緒に体を動かして遊びながら自然と関わる遊びや広い園庭での運動遊びに取り組んでいく。

自然物との触れ合いとしては、春と秋の虫探し。ダンゴムシ、コオロギ、セミや蝶を捕る。落ち葉で遊ぶ。お花を色水にして遊ぶ。やミカンやカキ、オシロイバナの種取りをして遊ぶ。などである。また、うさぎや金魚を飼っており、これらにエサをあげることを経験し、生き物への親しみや大事にしようとする気持ちも育てていく。

自然と触れ合い楽しく遊ぶ中で、なぜかな、といった科学の芽も育てていく。

#### 4. 令和3年度 重点目標

##### 1 コロナ禍でも安全で成果ある保育活動を実施する。

文科省、厚労省、東京都の指導に従いつつ、安易に休園にしたり、活動を中止したりせずに、教員の創意工夫により、子どもたちにとって今しかない幼児期を豊かなものにする、教育機関としての責務を果たす。

##### **<成果と評価>**

安全面では、文科省からの「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の新しい生活様式～」に基づき、もみじ幼稚園において具体的にどのような消毒などを行うか、保育者たちが自分たちで具体的な実施を記した「もみじバージョン」を作成した。マニュアルの改訂に合わせて「もみじバージョン」の消毒も見直した。

園児に陽性者が出た場合、その時々状況に合わせて、休園措置を取るか、一部の子どもだけを休みにするかなど適切な判断をしたことで、クラスターが発生することは一度もなかった。

##### 評価                    **A**

##### 2 基本に振りかえる

「1」の実施について教育活動の何を実施し、何を省略していくか、を考えるうえで、「もみじ幼稚園」の教育目標「根の教育」とは何か、初代園長先生のことばを、今の私たちの保育の姿としてとらえなおす。

##### **<成果と評価>**

例年通りになりがちな行事を見直す1年となった。これは何のために行うのか、ここで大切なことは何か。この方法が一番良いのか などなど、幼児教育の基本、もみじ幼稚園の「教育方針」の確認を職員全員で行事のたびにたくさん話し合い見直し確認することができた。

職員間のコミュニケーション、意思疎通も大に行うことができた。

##### 評価                    **B**

## 5. 学校関係者評価の実施と評価

令和4年3月に保護者アンケートを実施した。このアンケートによって「学校関係者評価」として、もみじ幼稚園の在り方についての在園保護者の満足度、ご意見を伺うことができた。

別紙 アンケート結果参照

実施日 令和4年3月

回答率 26名/40名 約65%

### <総括>

卒園が近い年長児保護者に対して、アンケートへの回答をご協力いただいた。

内容は、もみじ幼稚園の「教育目標」「根の教育」「保護者との連携、信頼関係の構築」の3つの視点から、もみじ幼稚園の教育活動への評価を問いかけたものである。

アンケート結果から、アンケートに答えてくださった保護者のほとんどがこれらの視点に対する評価として「当てはまる」「だいたい当てはまる」との回答をしている。

しかし、令和3年度のアンケート結果に関しては、若干名の「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の回答も見られ、真摯に受け止め改善を図らなければならない結果となった。

### 評価 **B**

## 6. 総合的評価 **B**

## 7. 今後取り組むべき課題

### 1. さらなる保育内容の見直し

令和3年度においては、令和2年度に引き続き「コロナ版」としてもみじ幼稚園の行事を見直した。コロナ3年目に突入する令和4年度は、もみじ幼稚園における「3年間の保育」の全体像を見直し、コロナにおける影響を検証した上で、必要な対応をしていく。

### 2. 自己評価を実際の保育に生かす

令和2年度は自己評価を作成したのみだった。令和3年度は第三者評価をホームページに開示した。令和4年度は、更に職員間でもアンケート結果を共有し、今のもみじ幼稚園の課題を共通理解した上で、日々の保育に勤しむ。また、質問事項ではなく自由記載された具体的な要望やご意見に対しては、可能な限り解決に臨む。

以上